

新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査報告 Part II

～埼玉県がん診療連携協議会 臨床検査部門の現状 ①感染対策編～

◎塚原 晃¹⁾、菊池 裕子²⁾、安藤 恭代³⁾、手塚 康晴⁴⁾、岩崎 康治⁵⁾、瀧沢 義教⁶⁾、鈴木 朋子²⁾、岩田 敏弘⁷⁾
医療法人社団東光会 戸田中央総合病院¹⁾、医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院²⁾、社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院³⁾、さいたま市立病院⁴⁾、独立行政法人 国立病院機構 埼玉病院⁵⁾、獨協医科大学埼玉医療センター⁶⁾、地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター⁷⁾

【はじめに】埼玉県では平成24年より、がん診療連携協議会事業の一環として地域拠点病院と県指定病院で連携をとりながら情報の共有化を図っている。今年度は新型コロナウイルス感染症が過去最大の流行となった第5波の影響で、多くの地域が感染対策に苦慮してきた。これまで連携してきた強みを活かし、第5波までの振り返りや今後の第6波に備え情報共有する事を目的にアンケート調査を行ったので報告する。

【対象】埼玉県がん診療連携協議会に参画する27施設の臨床検査室代表者に回答を依頼した。

【方法】アンケートは感染対策（病院、生理検査室、採血室）・検査・管理の3項目を行った。回答形式は単一回答、複数回答および文章回答とし、ここでは感染対策についての23問を対象に報告する。アンケート調査は2021年11月に実施・回収・集計を行った。検査・管理に関する詳細な集計結果については次演者2名が報告する。

【結果】27施設にアンケートを配布20施設からの回答を得た（回収率74%）。感染対策でアンケート調査を行った

23項目のうち代表的な結果について紹介する。「生理検査依頼の制限」について、制限していると回答した施設は第1波時74%・第2波後68%であったが第5波時は35%であった。

「生理検査前健康観察の実施」について、実施していると回答した施設は第1波時58%・第2波後79%であったが第5波時は65%であった。「実習生を受け入れた（いる）時期を教えてください」について、第1波時・第2波後8施設であったが第3～5波時は11～12施設であった。

【考察・まとめ】生理検査依頼の制限について第5波時は第1波時と第2波後と比較し減少していた。新型コロナ検査や感染対策を適切に実施しながら必要な生理検査を再開していると考ええる。生理検査前健康観察の実施について第2波後と比較し第5波時は減少していた。院内全体でのトリアージが共有され、生理検査室単独の実施が減少したと考える。実習生の受け入れについて、養成校との情報共有・連携強化で受け入れが再開していると考ええる。新たな変異株への脅威や第6波に備え、今回の情報共有は非常に有意義であった。連絡先 048-442-1111(2530)